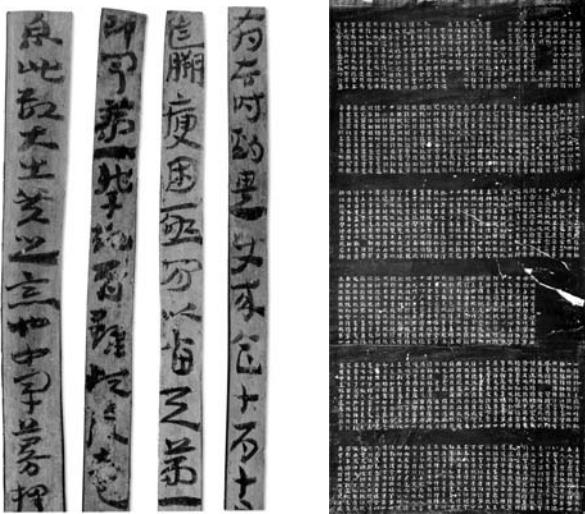


與支帝涉北因猶沈沕內  
貞夫茅涉減由細兒謝內  
紫桂林泥宜衍奚鴻弓邴  
紫桂林溫直衡奚驕叔邴  
若旌弘微寫芳毛送羽弓  
箱雍弘敞劉若芳毛遺羽馬

# 書体鑑賞・「章草体」①『急就章・松江本』



図版④  
楷書体 章草体 草書体



新年号からは、それほど熟知されていない書体をテーマにして、珍しい書法作品を鑑賞していきます。始めは、「章草体」です。章草体は、隸書体を速く、滑らかに書くことから生まれた実用書体とされ、草書の前の書体とされています。書体の特徴は、文字を簡略化した速書体であり、この章草体が進化して草書が生まれたとされています。今回は、「急就章・松江本」を取り上げました。急就章は、漢時代の史游が、千字文のように重複する文字がなく、3字を1句とする識字用の文章です。この『急就章・松江本』は、三国時代の吳の皇家（生没年未詳）が書いたと伝えられています。明時代に楊政なる人物が、この墨跡を石に刻し、今もなお原石は、上海近郊の

伊藤 滋  
メールアドレス・mokkei@galaxy.ocn.ne.jp



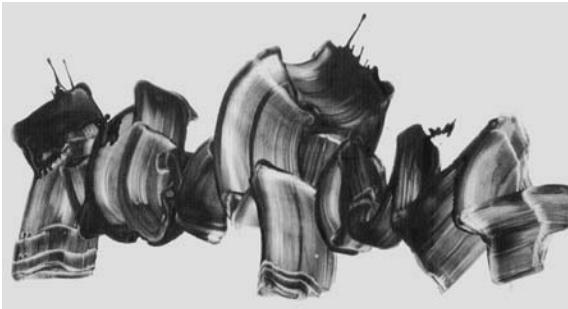
図版②

図版③

図版⑤

松江県の博物館に「天下章草第一碑」として伝えられています（図②）。碑の高さは、185cm、幅93cmで碑陽と碑陰に、章草体と楷書体が並列に刻されています（図③）。章草体の特徴は、後の草書体と比較するとその違いが明確です。右端は智永の「千字文」の草書から抜き出したものです（図④）。章草体は、末画に隸書の波磔のような強い波磔が見られ筆勢が上方か右上方に流れますが、草書はこうした終筆の筆勢が文字の右下で止まるようです。草書は、ここから連綿へと進みます。章草には連綿への動きを見ることは出来ません。こうしたことろが大きな相違と考えられます。古い時代の章草体として、西域出土の漢代の木簡の中にも章草体の実例を見る事ができます（図⑤）。

# 書道芸術院 平成の群像 (2015)



写真A 山岳



## 大石仙岳



写真B 刻字

**書の芽生え**  
私の家は小さな部品を作る機械工場を営み、経営と渉外の仕事で多忙な毎日である。職業の基礎知識を得るためにと商業科と工業科の

学校を卒業して、2代目社長に就任。今、息子も大きくなり、息子に3代目社長を就かせて、私は書に専念することが出来る自由な身となる。

から叱咤激励されて重く責任を感じた。  
「日の出・玄・山岳」の3点を出品。  
154×180・180×120の大作なので、工場の敷地で何日も掛けて仕上げた。勿論師の浜谷先生の知恵を借りて制作。写真Aの100×180の作品は私の代表作。大小・潤渴・リズムにスポットをあて殊に一貫したリズミカルな作品にて取り組んだ。英語を書くつもりでと軽はずみな言葉を使って、浜谷先生からどなりつけられた。豊かな書線・骨格のある線とは何かであった。

写真Bの作は、富山県芸術文化協会の推選作家展の2枚折の刻字屏風です。私は一時期篆書に興味を持ち、篆刻展・刻字展にも出品し入賞もしました。  
写真Bの作は、富山県芸術文化協会の推選作家展の2枚折の刻字屏風です。私は一時期篆書に興味を持ち、篆刻展・刻字展にも出品し入賞もしました。  
一刀一刀、入念に刀意を熟し、篆書体の特徴を生かしながら制作する。  
書とは生き物である。書の力、書の成立を考へながら表現することだと認識を新たにする。  
最近「元坐培根」を座右の銘にして精進している。今後ともよろしく、ご支援願います。

の方から注目されるように変容して、書にも愛着を感じてきた。

### 院の秋季展推薦作家展に出品

平成23年 書道芸術院秋季展  
推選作家展

富山県芸術文化協会 推選作家展

学生時代、書道  
科担当の故大乗上  
岳の指導を受けて、  
社会に出てから故  
書の手解きを学ぶ。

岳の指導を受けて、  
社会に出てから故  
書の手解きを学ぶ。  
浜谷芳仙先生に師  
事し、先生しき後、  
浜谷芳仙先生に師  
事し現在に至る。  
のんびり屋で遊び  
好きだった私は、  
ゴルフをやり出し、  
書よりゴルフに主  
力を置くようにな  
る。それが何時  
間にやら、どんな  
切つ掛けか不明だ  
が、書に熱中する  
ようになって地域

頌

春



## 謹賀新年 乙未の歳の始めに

明けましておめでとうございます。

2015年、平成27年の新年を迎えました。本

年もよろしくお願ひいたします。

本年は創立68年目を迎えることとなり、2月には第68回書道芸術院展が併催の第66回全国学生書道展とともに盛大に開催されようとしています。東京都美術館の会期は曜日ではなく会期日が固定されており、本年は2月15日の日曜日に陳列、16日休館、17日から21日土曜日までが会期となります。ご不便をおかけしますがよろしくご理解の上ご協力くださるようお願い申し上げます。最終日21日午前作品研究会を会場内で、学生活躍・一般展の表彰式、祝賀会を帝国ホテルで開催とかなり窮屈な日程となりますことをご了承ください。

夏には宮城県秋保温泉での単位認定講習会、秋には秋季展開催など主要行事も計画されております。会員諸氏のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成27年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

辻元大雲  
役員一同

# 書のひろば

理事長  
辻元大雲

一般財団法人毎日書道会定例理事会  
第7回展実行委員長 壱元大雲

総務部長 下谷洋子が担当  
名誉会員浜谷芳仙、参与会員に西林  
乗宣・山藤美知子各氏推举

去る12月11日、一般財團法人毎日書道会定例理事会が開催され、平成27年度事業計画・予算の審議、第67回展の主要役員、名誉会員・参与会員はじめ昇格人事などが決定された。

27年度の事業はほぼ例年通りの計画で、本展のほか新春展・チャリティ展・国際高校生選抜書展ほか各地方での展覧会などを実施する。予算面では66回展での出品品点数減少の影響を考慮しやや縮小予算が組まれた。

实行委員長	辻元大雲
総務部長	下谷洋子
審査部長	永守蒼穹
陳列部長	石原太流
第3回ギメ展実行委員長	仲川恭司
運営委員(院関係)	
近代詩文書部	浜田堂光
大字書部	
前衛書部	小林琴水
北陸展実行委員長	金井如水
津田海仙	

- ・**名譽会員推挙** 浜谷芳仙ほか2名
  - ・**規定による審査会員昇格** (26名)
    - 工藤溪舟 (刻字)、知野洛水 (前衛)
    - 同 会員昇格 (164名)
  - ・**(漢字) 廣田憩龜 (かな) 佐藤希雲** 仙場美枝子・田村玲子、(近詩)乙倉翠芳・嶋田麗雲・高橋潤・高橋真舟、(大字) 阿濱浜翠燕・小林椿寿、(刻字) 篠田華所・田代明眸 (前衛)
  - ・**宮崎久美子**
  - ・**会友昇格 (629名) 省略**
  - ・**2015 現代の書 新春展出品者**
  - ・**(和光会場) 1 / 5 ~ 11日**
  - 恩地春洋 辻元大雲、下谷洋子  
(セントラル会場 65歳以下) 同会期
  - 川島舟錦 (大) 小竹石雲 (近) 後藤大峰 (刻) 種谷萬城 (漢) 千葉蒼玄 (前) 半田藤扇 (漢) 前田龍雲 (大)
  - ・**イベント 和光 6・7・10・11日**  
7日下谷、11日辻元担当 (15:00)  
セントラル 7・8・9日席上揮毫
  - 6・10・11日作品解説 (午後1時)
  - 6日 千葉蒼玄担当
  - ・**2015 毎日 チャリティ書展 同会期**
  - 会場 銀座画廊美術館8階
  - 出品者 (院関係) 恩地春洋・辻元大雲・下谷洋子・香川倫子・小伏竹村・鳥山岳風・村野大仙 (名譽会員以上)、大野祥雲・小竹石雲・千葉蒼玄・黒川江偉子・濱田尚川・宮澤梅径 (参与会員以上)、石井明子・板垣洞仙・工藤永翠・後藤大峰・最
  - ・**山口仙草 (当番書・副部長以上)**
  - ・**作品価格** 名誉会員以上 7560円  
当番書ほか 54000円
  - ・**チャリティへのご協力を。**
  - ・**2015 毎日書道展新会員作家展** 3月2日~3月28日まで4期に分け  
て開催。会場アートサロン毎日
  - ・**書道芸術院創立70周年記念 ウィーン展会場下見報告**
  - 2016年 (平成28年) 11月23日に本院は創立70周年をむかえ、70回記念展は2017年2月に開催される予定で、70周年記念事業は本展を皮切りに全国役員巡回展、70年記念誌発行などと合わせ海外展の開催を予定している。65周年の折には前年の東日本大震災の影響で海外展を見送っており10年ぶりの開催となる。先般の理事会にて70周年記念海外展をこれまでの長い交流実績を考慮し、事前の会場交渉などのため、辻元理事長と海外展担当の下谷洋子常務理事が12月1日から5日まで現地を訪問した。あらかじめ在オーストリア日本国大使館に会場候補をご検討いただいた関係で、現地視察及び関係者との打ち合
  - ・**白嶺・種谷萬城・田村鄭雲・津田海仙・西林乗宣・半田藤扇・森舞扇・首翠風・崎井恵風・砂本杏花・田子**



ウィーン世界博物館

とゆえ具体的な借用契約には進まない  
がほぼ会場候補として検討させていた  
だいた。

会場候補として、ウイーン市中央に位置する「王宮」の一部「ウイーン世界博物館」をご紹介いただいた。会場は豪壮な建物で天井も高く部屋数も広さも素晴らしい会場であった。ただし本年11月より全面改装に入っており、工事が2016年末までかかるとのことで、工事の進捗状況により改めて来年度中に再度交渉することとなっている。日本大使館竹嶽大使の全面的なご支援を頂いており、記念展の実施に向け諸準備を進める予定。ご理解とご支援をお願いしたい。

前号にて触れたが本件に関しては恩地春洋顧問、四国支局・高知の谷脇梅翠先生に種々お世話になつており、重ねて感謝申し上げたい。

## 漢字(四)

濱田尚川

## 篆刻・刻字(四)

後藤大峰

古典を忘れるまでやる

天来・尚亭先生は「臨書の古典は晋唐以前、三筆三蹟以前とし他の時代の書は見るべきもので習うべきものではない。」と豊かで純粹性の高いものを求めておられる。この真髓を教わり深めた桑鳩・右卿等の出現によって、書の藝術性を磨き上げながら現代の書の姿へと導いてくださった。特に書の格調とか氣品を求めるここまでねらうべきだと藝術性を高く求めていたことは強く心に残っている。書の品格は命です。線が出来ないとダメですね。磨こう。

「獨坐」は大らかにゆったりと、筆

を置いていく気持ちで楽に運筆できたし、字形もあまり意識せず自然に出来る気持ちで、白を生かすことを目ざして作ったものです。筆は進行方向に自然に傾いており、引く線になっており丸味のある線になった

と考える。字形も筆の都合で変な面白い形になつたと思う。こんな形に書こうと思ったらダメですよねエ。気持ちよく楽しく書けたのがよかったです。線が響くものには空間が生まれる。白い所だけではなく黒い所にも。



「獨坐」(全紙・平成22年個展)

## 21世紀の書 —私の主張—



「群牛」(第62回書道芸術院展)

後藤大峰刻

一連の作品を創作し始めてから数年を経て納得が、いかないまでも作品を創り続けました。これらの作品について他の方ご意見と言うか、どの様に思って居られるのか?それを知りたくて近くにいる現代書部門の方に問うてみると「いいと思うよ」とか「面白いんじゃない」との反応!ハッキリとした回答を得られない中、ある書道専門誌に「これから書壇の主張となる作家を求めて『俊英100人登壇』」と言う特集で他の同世代の現代

の代表篆刻作家の方々と一緒にとりあげて頂きました。「嬉しかった!」どうなも教えてくれず、どなたにも導いてもらえない!そんな、正に手探りの中、闇雲に同じような作品を創り続けて、もう、この様な作品を創るのは止めようか!と思っていた矢先でしたので大いに自信を持てました。見てくれてる方は見てくれてるんだ!となる感じでした。その時の作品がこの作品です。アフリカのサバンナに生息する「ヌー」と言う集団で行動する牛の映像を見て創作を思いついたもので。印面に「牛」を走らせました。

# 書道藝術院創立記念日 特別公開講演会

平成26年11月23日(日・祝)  
於 上野精養軒

## 「仮名の料紙について」

講師 名児耶 明先生

### ＜公開講演会＞

理事長 辻 元 大 雲

本院創立記念日恒例の特別講演会が  
11月23日、上野精養軒で定員を大幅に  
上回る250余名の参加者が集い開催され  
た。

本年は五島美術館副館長の名児耶明  
先生にお出でいただき、「仮名の料紙  
について」と題し、約1時間半、スラ  
イド映写とともにユーモア溢れる多彩  
な内容で大いに盛り上がった。

名児耶先生は94年、北海道生まれで  
東京教育大学（現筑波大学）教育学部  
芸術学科書専攻を卒業後五島美術館に  
奉職され、現在財団法人五島美術館理  
事・学芸部長のほか、東京学芸大学、  
東京芸術大学などの講師も務められて  
いる。主に日本かな古筆を研究され、  
著書もかな古筆類を中心多く執筆刊  
行されている。

講演は先生自ら撮影された自然の風  
景、庭園や木立、空の雲などを例に引  
き、日本独特のかなの美の根底に流れ  
る日本人の美意識、感覚などを具体的  
な例を示しながら分かりやすく楽しい

内容であった。かな料紙の独特的の模様  
「雲紙と飛雲」、色彩の味わい、「藍と  
紫」の関連などを、たとえば庭園の木  
立の様や枯山水の石庭のデザイン、非  
対称の美とアンバランスの味わい、  
「わび」「さび」を愛する精神的な背景  
などと結び付けてのお話など、専門外  
の我々にも理解しやすい魅力溢れる内  
容で聴衆を魅了した。

講演会終了後は恒例の創立記念日祝  
賀懇親会が会場を移して、ここもまた  
会場いっぱいの参加者で賑やかに開催  
された。名児耶先生のほか、毎日書道  
会の西村事務局長、毎日新聞社事業本  
部二岡氏、また創玄書道会・独立書人  
団・清和書道会などからもご参加いた  
だき錦上華を添えていただいた。全国  
13総支局代表による近況報告、各種展  
覧会や出品者の紹介などもあり大いに  
盛り上がった。

また当日午前には公益財団法人定例  
理事会が顧問・評議員もオブザーバー  
として参加していただき当面の事業計画、進  
行状況の報告、来る創立70周年記念事  
業実行委員会（理事・監事で構成）の  
発足も議決され3年後の実施に向けス  
タートすることとなった。



講演中の名児耶先生



会場は受講者で満員

## 懇親会

### 三浦 鄭街

名児耶明先生の講演会終了後、恒例の懇親会を行いました。

懇親会は、(公財)書道芸術院 辻

元大雲理事長の挨拶に始まり、顧問の先生を代表して恩地春洋先生の乾杯。とても和やかな雰囲気の中、全国13の

総局支局の先生方から、行事報告、行事予定、展覧会等のご案内が紹介されました。北海道支局より、「北海道書道連盟60周年記念展があり、代表者300人が出品し、齊藤雨城先生が出品されました。」北関東総局より、「大澤雅休先生創立の上毛書会展(群馬県内の前衛展)が3月26日から4月1日まで高

崎シティギャラリーで135名の出品で開催」、北陸支局より「8月8日～10日高岡文化ホールで第55回書道会・第40回学生展が辻元理事長出席のもと盛大に行われました。」南関東総局より、「日本童謡の書展が12月16日～21日まで千葉市美術館で、第21回白扇書道選抜展が1月5日～11日、アートサロン毎日で開催。多數、お運びください。」東京総局より「新春の馨香会展、会員で落語家の桂右團治さんの紹介と軽妙な語りを披露してくださいました。」甲信越文局より「11月29日～30日キッセイ文化ホールにて長野県現

代書芸展が開催」、関西総局より、「9

月竹扇会展が小扇先生の喜寿展と併催で、春洋会展が大阪産業創造館で10月18日～20日、小燕会展が11月5日～9

月奈良県立万葉文化館で、若手の墨士會展が11月8日～10日大阪産業創造館で、12月16日～21日高知で川崎白雲一門展を開催。」山陽支局より「11月14日～16日岡山市灘崎文化センターで石心会書展の開催」四国支局より、「11月3日、谷脇梅翠先生が高知県文化賞を受賞されました。」九州支局より

「来年は第20回記念の九州支局展になります。今からしっかりと準備します。」最後に東北総局より、「27年の8月22日、23日仙台、秋保温泉で単位認定講習会が開催。多くの参加お待ちしています。」

新年1月4日～16日東京都美術館で「TOKYO 書2015」の川島舟錦、田村鄭雲、山口仙草の各先生方からご挨拶、1月5日～11日「現代の書新春展」1月28日～2月2日 日本橋高島屋で「現代女流100人展」の出品者の先生が紹介されました。

常務理事の小竹石雲先生の中継めでお聞きとなりました。事務局次長として司会進行の大役を任され、皆様のご協力により無事終了出来ました。ありがとうございました。

懇親会の報告と致します。

(写真 前田龍雲)

理事長による講師紹介



懇親会で理事長挨拶



大勢で賑わう懇親会場

## 自書告身帖（顏真卿）①

特別研究部臨書課題

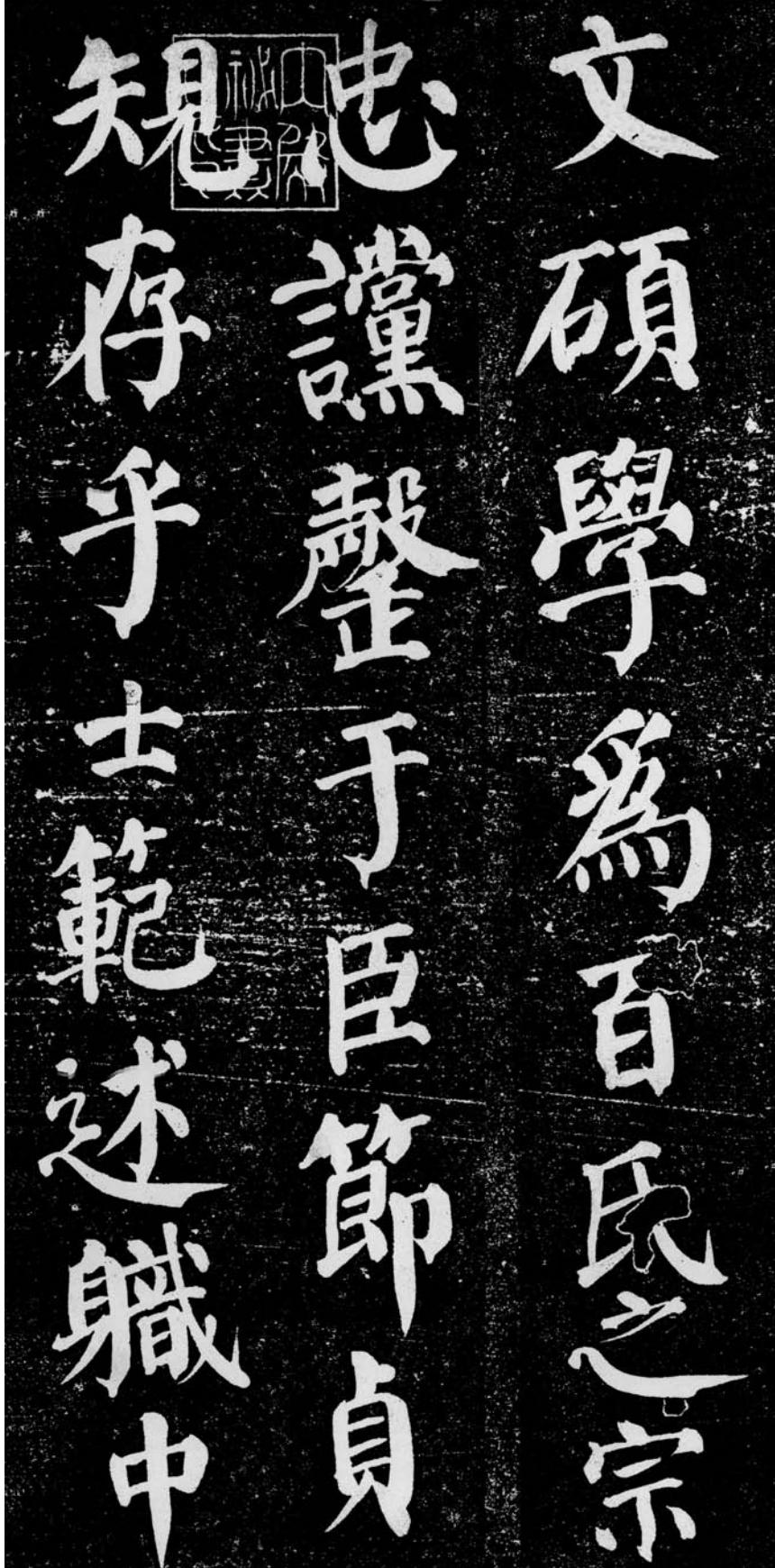
（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

（解説）自書告身帖は建中元年（780）8月に顏真卿が太子少師（皇太子の教育を掌る官）の官を授けられた際の辞令。「建中告身帖」「自書吏部尚書詔」ともいう。顏真卿はこの時72歳であった。縦30×横220・8、33行、小楷13行、全360字。自分で自分の辞令を書くといふのは異例だが、顏真卿は辞令を発行する吏部尚書の長官だからため、自身の辞令を自書したものといわれる。太子少師は官位が

高いのに、実際は肩書きだけの閑職で、実質的な栄転ではなかったようだ。彼が要職だった吏部尚書（正三品）から、この官に移ったのは当時の宰相楊炎から、顏真卿が憎まれてしまつたためだろうと考えられている。また、官吏の署名が欠けているため、顏真卿が当事者である自分の名前を譲遜して避けたのではないかと考えられている。

（編集部）

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)



文碩學。為百姓之宗。／忠讓聲于臣節。貞／規存乎士範。述職中

なかつかしふう  
中務集(西行) ①

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは〇〇  
(押印のみも可)

特別研究部  
臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）  
左記の掲載以外も可。

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付也可。  
半懷紙は半紙サイズに切つて使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上  
を書く。(全臨也可)

よみ

〈解説〉

い所可多利  
いそのかみふるきわたりを  
はなさきにけり  
ふしみ 布  
さくらばなぢりかふそらは  
久介利可  
くれにけりふしみのさとに  
やどやからまし  
あるやま 万  
ひとめのみあるやまになくよ  
ぶこどりしのびにたれを  
万年 利日尔多  
まつねなるらん

中務（912年（延喜12年）頃～991年（正暦2年）頃）は、平安時代中期の女流歌人。三十六歌仙、女房三十六歌仙の一人。父は、宇多天皇の皇子敦義親王で、親王が中務卿であったことから、この名がついている。母は女流歌人の伊勢。異母兄弟に刑部卿源後古・源方古がいる。

(編集部)

蒙古文

ソホト

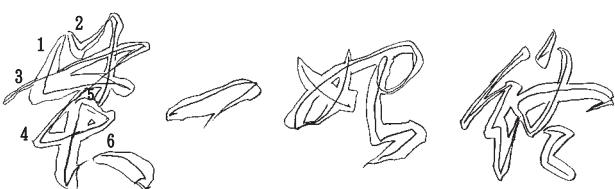
小林琴水

終始一貫 (四字熟語新辞典)  
(終始一貫)

始めから終わりまで、ずっと同じ主義や態度でのぞみ変わらないこと。

普普通々切らないで、気分をつらねて、書き進めること。

「一」が一番難しい。  
味のある線質で…。



終始一貫 よみ(終始一貫)

書体=自由

習い方解説 (四)

種谷萬城

温故知新  
（論語）  
（故き温ねて新しきを知る）

「温故知新 可以為師矣」  
（故き温ねて新しきを知る、以て師と  
為す可きなり。）古いことに習熟  
して、新しい知識を導き出すこと。  
孔子が人の師たる者の資格を述べ  
た言葉です。

今月は、初唐の三大家の一人、  
歐陽詢の書風で倣書しました。歐  
陽詢は「千古の楷則」「楷法の極  
則」と称され、整齊な楷書の頂点  
質は直線的で緊張しています。字  
形は縦長で、背勢（字の中程を内  
側に引き締めた形）、中心部分が  
引締まり、手足が長く、スマート  
です。八頭身美人のように洗練さ  
れた容姿を持ち、完成された楷書  
は瑕疵がありません。

温故知新 よみ（故き温ねて新しきを知る）

書体＝楷書



かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

### 習い方解説 (四)

石井明子

雪さら／＼初日のぼりぬ馬の耳  
(正岡子規)

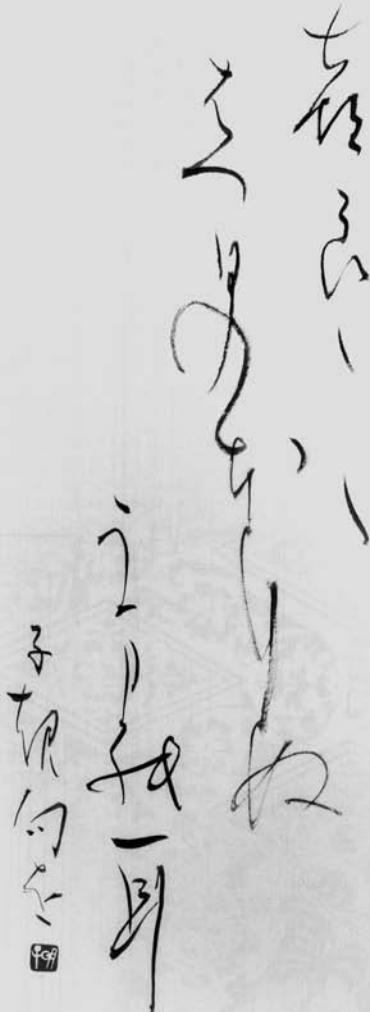
ゆきさら／＼

明治28年、子規は日清戦争に従軍し、遼東の地でこの句を作りました。間もなく帰国の途中、喀血した。長い闘病が始まります。

一読して、スケールの大きい明るい絵を見るような思いが湧きました。元日の句を意識して、きらの変体がなを喜と良を選び、ちょっと遊んでみました。

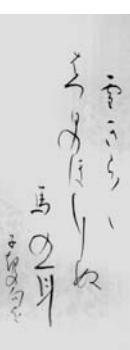
あらためて17文字の持つ力強さにうたれ、余白という課題に振り回されながらの制作となりました。11月23日書道芸術院創立記念日の名児耶明先生の講演を思い出し、空を見上げ、雲の流れを眺める毎日です。自然是ヒントでいっぱい。

△参考▽



よみ方 ゆきさ(雪)／＼(良)き(へ)／＼(へ)は(者)つ日のは(本)りぬうま(万)の(能)耳 子規句を

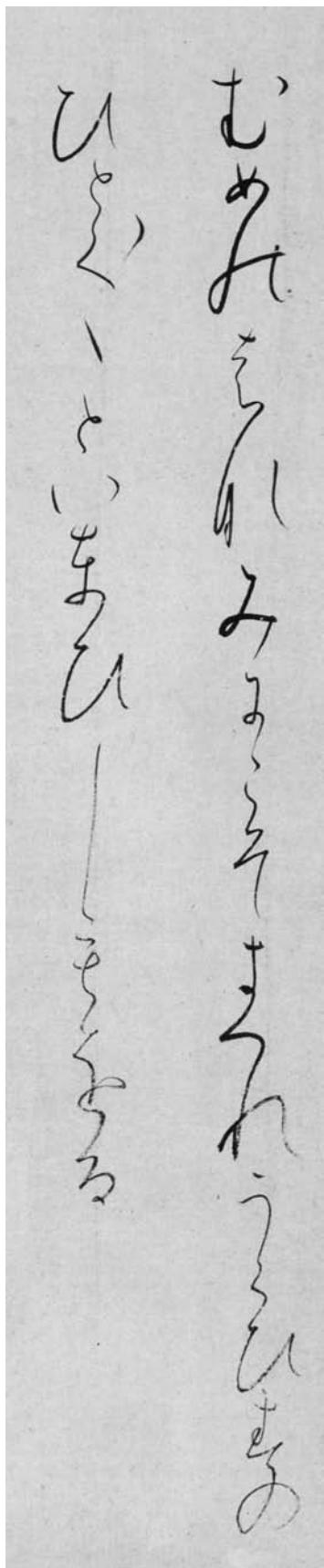
創作



かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 むめの(能)は(者)な(那)みに(尔)こそき(支)つれうぐ(久)ひす(春)の  
ひとく(久)へこと(東)ひしも(毛)をる

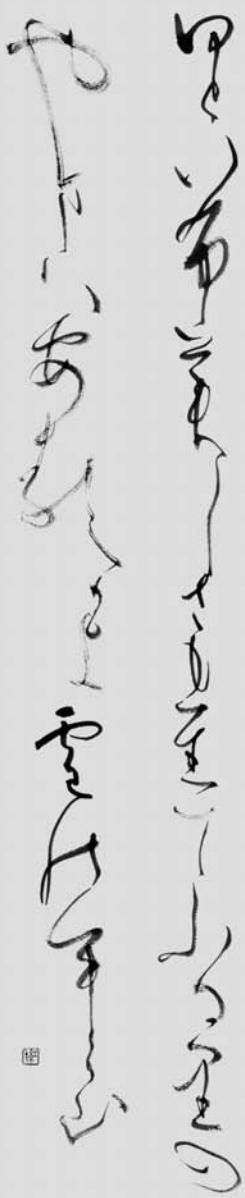
かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄司紅邨選書

### 習い方解説 (一)

庄 司 紅 郡

何といふ美しさもられて故里の  
山はあるかよ雪の群山  
(窪田空穂)



歌意からすると寒さ厳しい凜とした景色が目に浮かびます。複雑な文字を使わず、読めるかな作品としました。連綿、流れを大事に左右のバランスに配慮して下さい。2行目の頭で、墨量が少なくなり、苦しいですが、ゆったりとゆるやかに筆を進め、墨継ぎの雪で表情を出しましよう。

創作

よみ方 何といふ(布)美しさもち(遅)てふる里の  
やま(刀)は(八)あ(安)くる(類)か(可)よ雪の(能)む(牛)ら山

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【二月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

半田 藤 扇選書

## 習い方解説 (四)

半田 藤 扇



今月は14文字2行。草書を中心  
に重厚な線質、その中に伸びやか  
さも加味する書風を試みました。  
・余白と穏やかな流れ（章法）  
・牛耳筆の抑揚と弾力（筆法）  
が、作品をつくる上で、大切な鍵  
となります。

書体＝自由

難しい取り組みにもチャレンジ  
してみて下さい。

※たて形式に限る

閑中信歩花留住 醉後高歌月送歸  
(現代書作必携より)  
(開門中 歩に信せて花留 住し、醉後高歌して月歸るを送る)

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野 祥雲 選書

## 習い方解説 (四)

大野 祥雲

春のうららかな日、美しい光が  
差している。

麗は画数も多く自然に大きくな  
りました。続く日は極端に小さい  
ですが、接筆に注意し白を生かす。  
発は墨量も少なくなり渴筆に。光  
細く書く。華は筆先で息永く思い  
切って運筆。特に終筆の縱画は力  
強く押しげみに長くしました。

書体＝自由

麗日発光華  
(麗日は光華を発す)

(孟浩然)



麗日発光華

(麗日は光華を発す)

唐 岩 碧 水

# 江 雪

千 山 鳥 飛 ぶ と 絶 え

萬 徑 人 蹤 滅 す

孤 舟 裳 笠 の 翁

獨 り 寒 江 の 雪 に 釣 る

しづかに舞う雪の下、寒氣と静寂の中、ぽつんと釣糸を垂れる一人の翁。水墨画を見るようです。

余白を生かすように、天地、左右の袖も考えて、落款を忘れずに入れましょう。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

碧 水 書

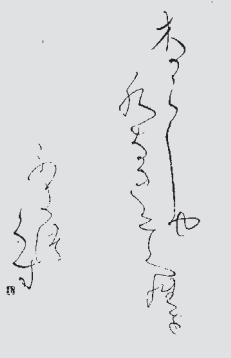
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

# 今月の

## ホープ作品 各部総評 No.643

**かな部 師範 佐藤 詠子**  
 こんなにも大らかな表現がある  
 のだと虚を衝かれる思いです。天  
 衣無縫の魅力に深く感動しました。  
 ◎かな部総評 字が過小、墨量過  
 少で貧弱な作多く残念。短歌より  
 稍、大きめの筆を試しては?作品  
 には常に華やぎを! (明子評)



**かな条幅部 四段 本田 美雪**  
 後敏なりズムにのって爽やかで  
 軽快。墨はもう少し濃くてもよい  
 が、種々の加減に秀でて美しい。  
 ◎かな条幅部総評 変体がな遊に  
 誤字散見。慣れない方は無理に創  
 作せず、手本の理解に努めてリズ  
 ム、調和を習得したい。(洋子評)



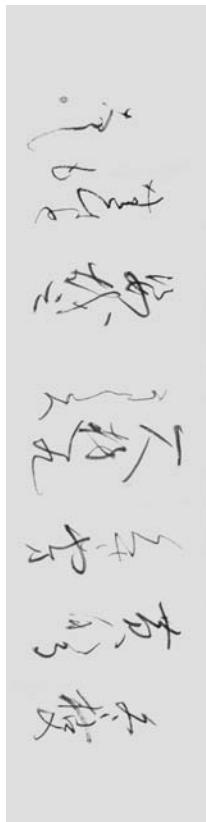
**漢字条幅部 師範 土屋 恵仙**  
 漢代木簡の倣書。リズミカルな  
 運筆で爽快な隸書。字形も安定し、  
 熟達した技量が窺え、鍊度が高い。



**◎漢字条幅部総評** 上級者は行草  
 書作品が多く、創意工夫に富んだ  
 佳作が多い。字形不正確な作、要  
 注意。(萬城評)



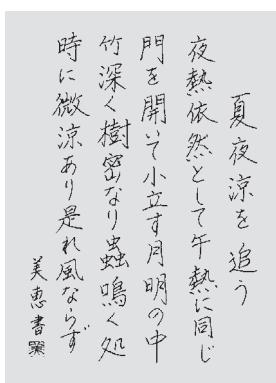
**前衛書部 特選 後藤 敬子**  
 明るく切れ味のある充実した線  
 質で、潤滑のバランスもよく、魅  
 力的な作品となっている。  
 ◎前衛書部総評 用材等を更に追  
 求し、シンプルで自由な発想の作  
 を望みます。(仙草評)



**現代詩文書部 特選 小川 晓雲**  
 切れ味鋭い筆致で大胆な作風  
 まだ稚先の運筆に難あれど、爽や  
 かさと新鮮さを感じる作品。  
 ◎現代詩文書部総評 詩文を書く  
 以上、その詩意が作品に込められ  
 なければならない。(素雪評)



**漢字字部 師範 小山内谷玲**  
 ねばり強い筆致が柔毫筆の弾力  
 で生かされ、広がりと余裕を感じ  
 させている。落款も調和し見事。  
 ◎漢字部総評 上級課題画数の少  
 ない字形で苦労したようではラン  
 スの悪い作多し。下級を含め造形  
 感覚の基礎的学習を。(大雲評)

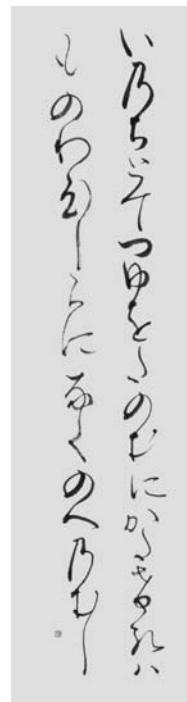


**ペン字部 師範 佐々木美恵**  
 力まずに淡淡と書き上げた爽や  
 かさが魅力の作品です。余白美を  
 意識してさらなるご精進を。  
 ◎ペン字部総評 行書体作品は流  
 れを重視するので弱く感じられる  
 作品も多かった。ペンの太さも要  
 素としては大切か?(鄭街評)

**夏夜涼を追う**  
 夜熱依然として午熱に同じ  
 門を開き小立す月明の中  
 竹深く樹密なり蟲鳴く處  
 時に微涼あり是れ風ならず  
 美惠書案

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



都丸みどり臨

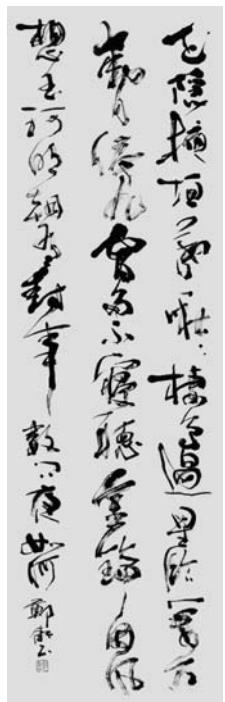
137×35cm

臨書 (書景)

都丸みどり 「右衛門切」

◆太細の利いた艶やかな線をよく理解して拡大にした。拡大すると難しい緩急もよく出ている。(洋子評)

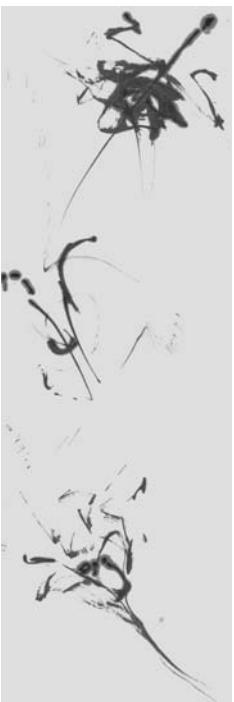
◆原本が細字のかな古筆の拡大臨書は難関。よく特徴をとらえ、落ち着いた表現力を買っている。(大雲評)



三浦鄭街書

173×53cm

漢字 (八街) 三浦鄭街 「春宿左省」



阿部雅悠書

前衛書 (秀恵) 阿部雅悠 「動静」

◆王鐸の風を感じさせリズミカルな3行書。渴筆がやや浮きすぎの感あり。骨力を養いたい。(大雲評)

◆全体無理なく美しい流れが出

来、運動量の多いのが伺える。

字の大小の表現を少し考えては

と……。(倫子評)



漢字研究部  
(始平公造像記)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



板橋 雅邦

漢字研究部 特選 板橋 雅邦  
原帖の特長を十分にとらえ、厚みのある線で伸びやかに書かれた、堂々たる臨書です。字形も程よく引き締まり、落款の位置も全体のバランスを考えて入れてあるところなど、他の模範となるに十分な出来映えだったと思います。

◎漢字研究部總評

始平公造像記が課題となつてしまふと経ち

ましたが、北魏書の用筆・字形のあり方などが考慮されていない作品も目立ちました。隸書の影響が残る時代のものですから、横画に力を込めて書くべきだと思います。線が太くても圧力がかからないものや、起筆に力が入っておらず、顔真卿風となつてしまつた作品も散見されました。また写真(拓本)が不鮮明なため、書き方に様々な解釈が見られ、皆さんが苦労されている状況が伺えました。



景紫瑤江桃七  
峰千翠彩華生

紫成蒼萩彩綠  
江子風雨苑山

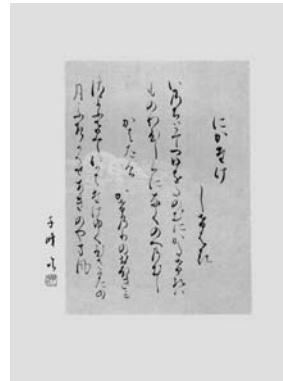
惠菜純陽晴梨  
泉円平光江秀

雅翠智惠淳  
悠江子芳泉

か な 研 究 部

選評 田 村 澄 子

今月のホープ作品



長谷川 千 峰

温にして艶を含んだ線質、筆勢はなかなか美しく、冴えて、よく観察して書きました。お見事です。  
○かな研究部総評  
古筆を数回書いてみると、自然に、上、下、の動き流れが見えてきます。忠実に観察して、誤字がないように、注意して書いて下さい。

かな研究部成績表

[特別昇級試験臨書課題]

※左記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。  
掲載以外は違反となります。

孔子廟堂碑（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

懸 諸 曰 月  
既 而 仁 獄

非 時 鳴 鳥  
弗 至 指 人

懸諸曰月既而仁獄  
非時鳴鳥弗至指人

蘇慈墓誌銘（楷書）

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

字 孝 慈 其 先 扶 風 人  
也 九 曲 靈 長 河 流 出

字 孝 慈。其先扶風人也。九曲靈長。河流出二

高野切第三種

かな部 第一種

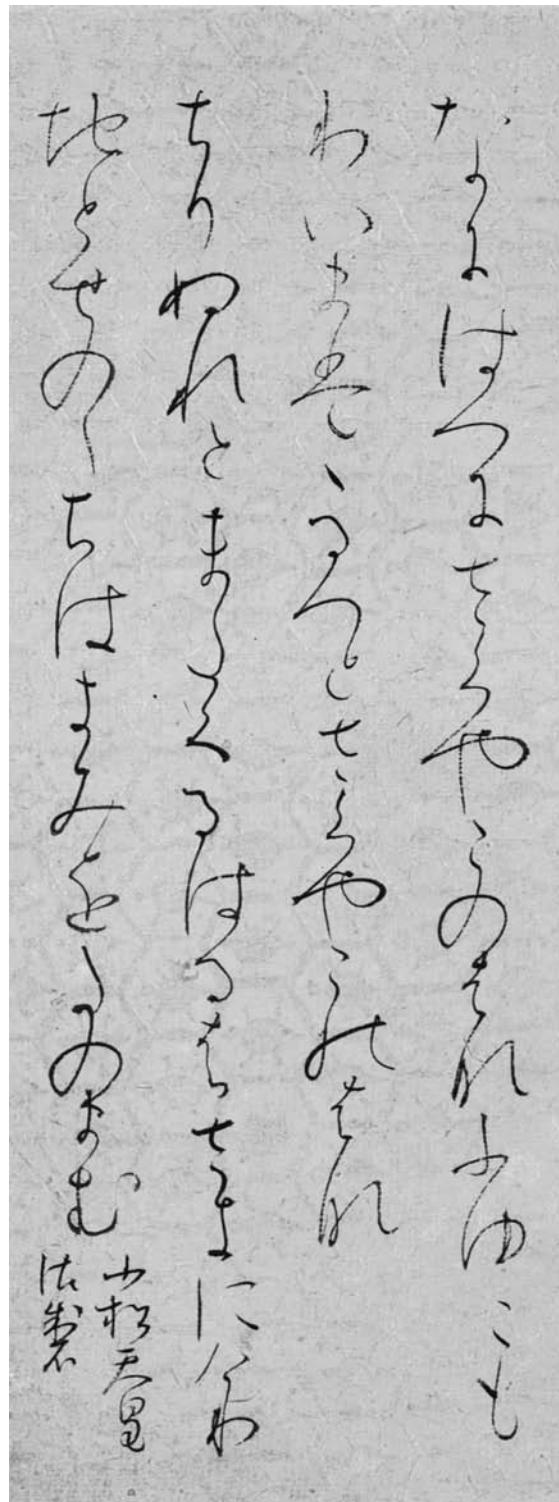
半紙に写真掲載の和歌・二首を書く(料紙可) △93%縮小△

一  
十  
三  
年  
九  
月  
己  
未  
日  
癸  
卯  
朔  
丁  
未  
望  
庚  
戌  
晦  
壬  
午  
既  
望

まことに、おめでた

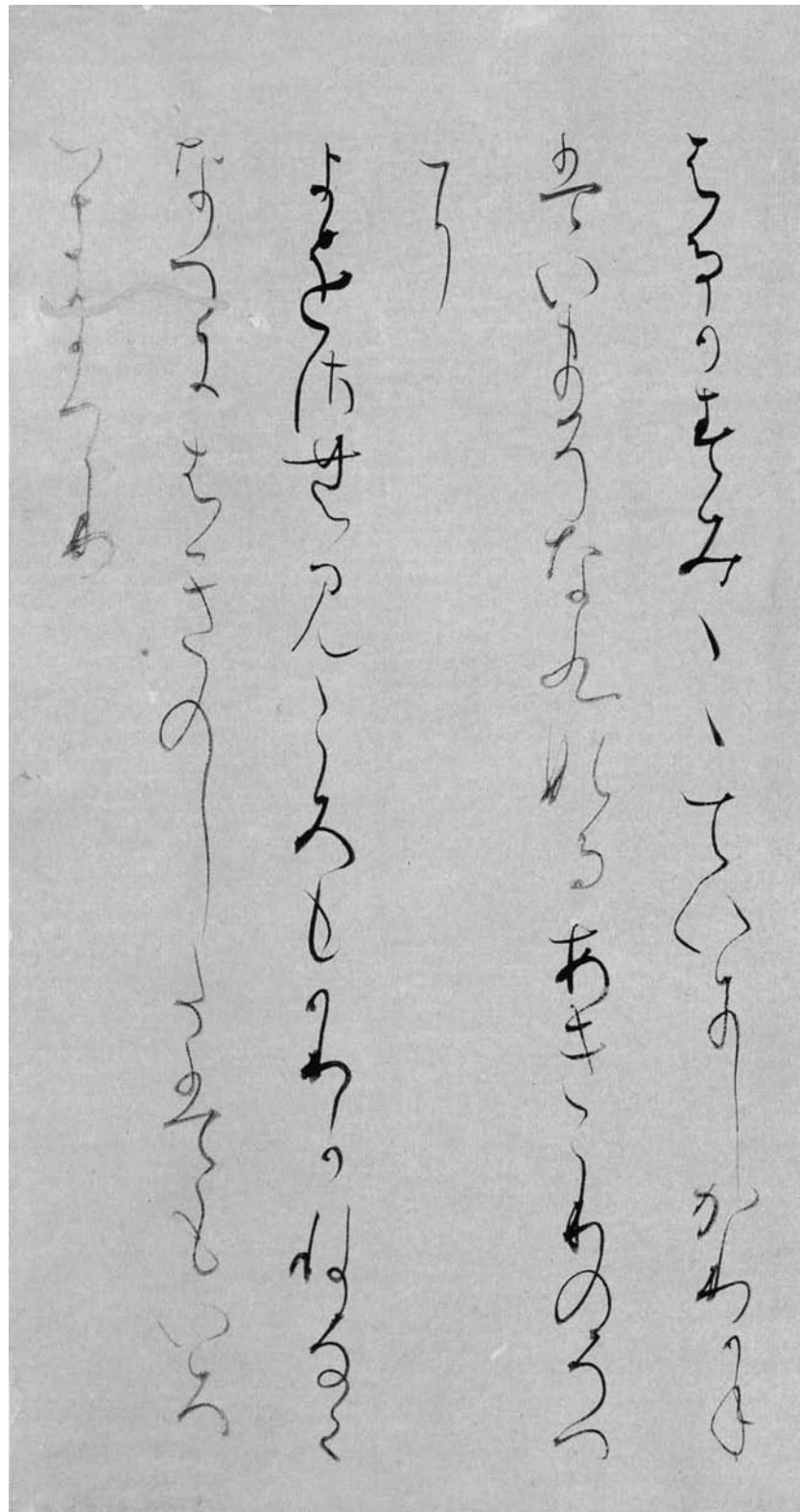
「さあ、おまえの手でやるわよ。」

きみがおもひゆきとつあらばたのま／れすはるよりのちはあらじとおもへば  
毛多春  
きみをのみおもひこしだのしらやまは／いつかはゆきのきゆるときのある能盤



なにはづにさくやこのはなふゆごも／りいまはゝるべとさくやこのはな  
ぢりぬれどまたくるはるはさきにけり／ちとせのゝちはきみをたのまむ多能者那  
支利地  
御製

はる  
者  
か  
可  
す  
み  
春  
く  
て  
い  
に  
し  
か  
り  
が  
ね  
は  
い  
ま  
ぞ  
な  
く  
な  
る  
あ  
き  
ど  
り  
の  
う  
へ  
に  
耳



(料紙可)

(たて12.7センチ×よこ12.4センチの枠を  
半紙に書いて、その中に書くこと)  
※落款は右枠内でも  
枠外でもかまわない △原寸大

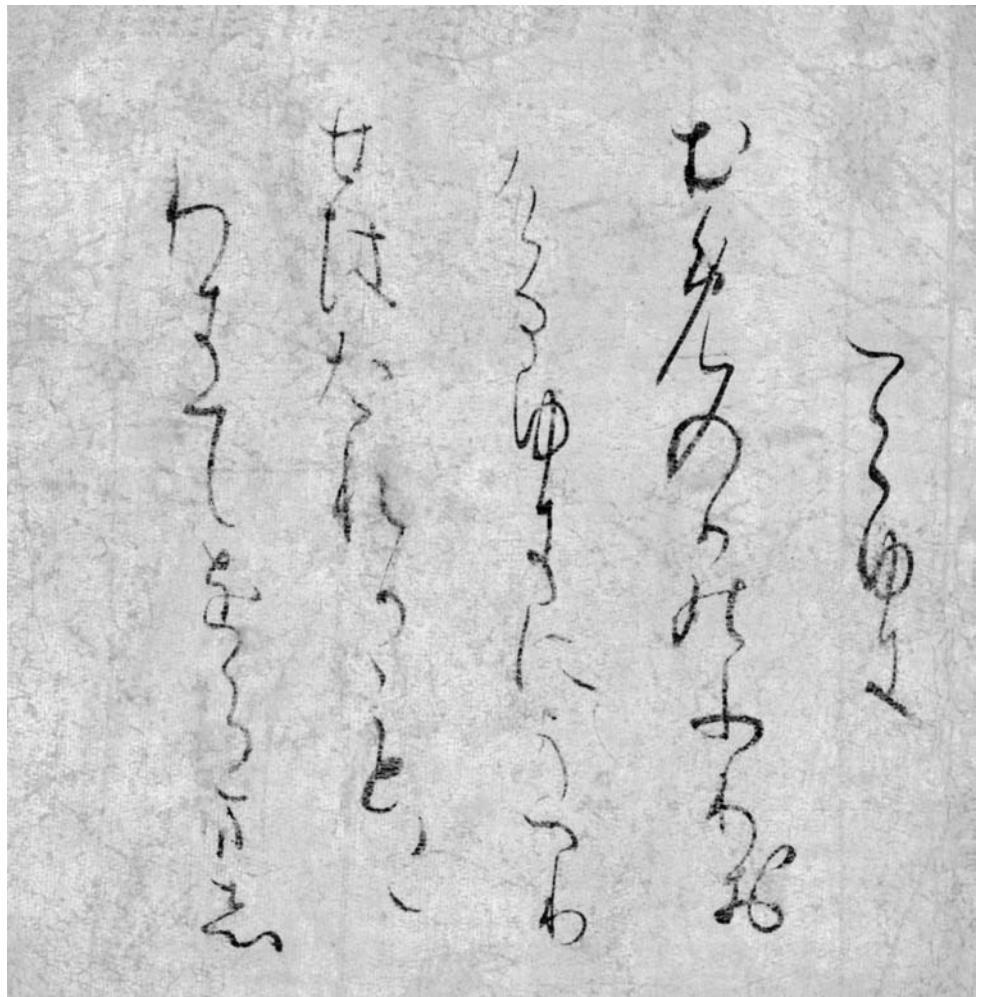
つらゆき

むめのかのふりお

けるゆきにうつり

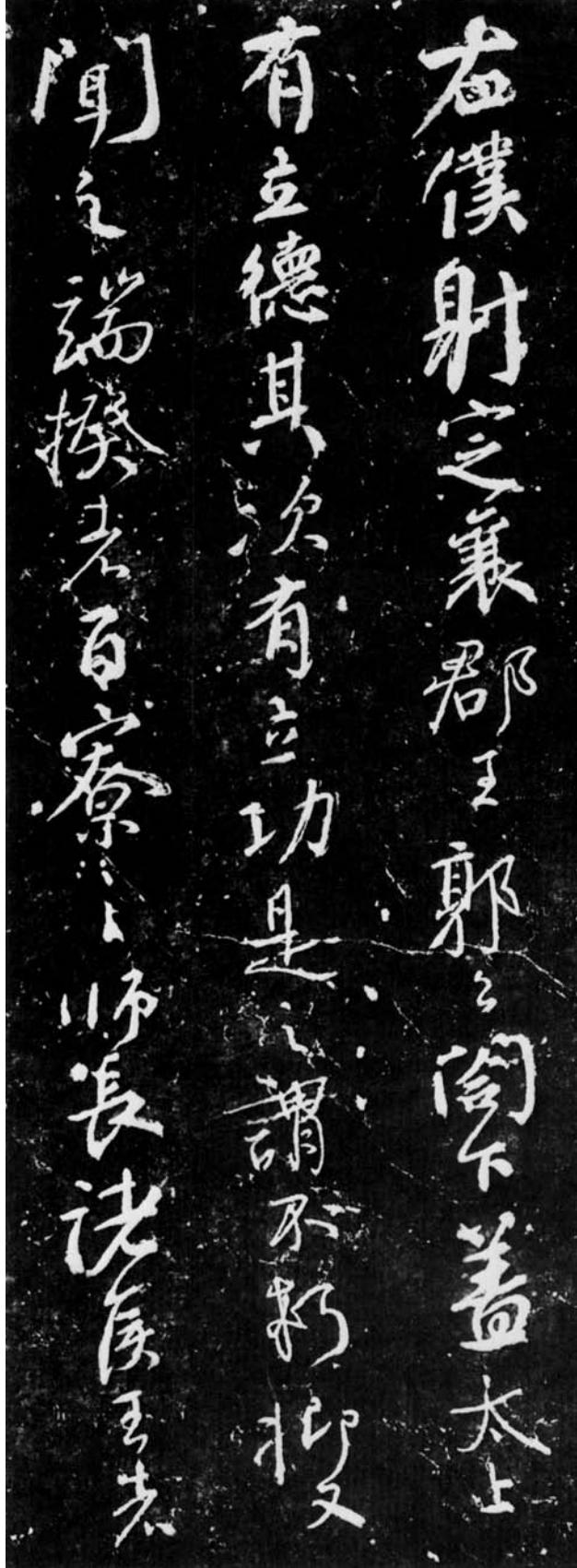
せばたれかことぐ

わきてをらまし

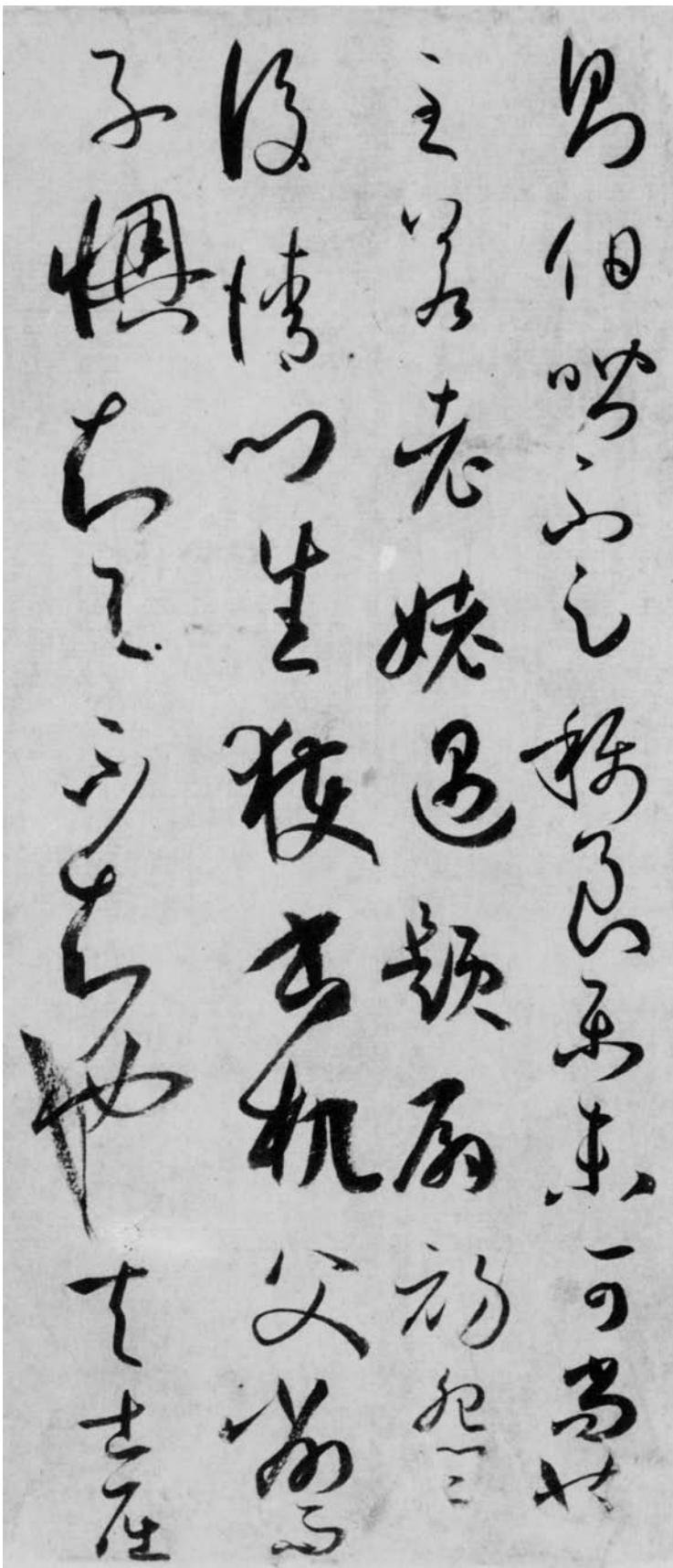




激<sub>三</sub>清<sub>一</sub>風<sub>二</sub>於<sub>二</sub>後<sub>一</sub>葉<sub>一</sub>抗<sub>三</sub>/名<sub>二</sub>節<sub>一</sub>於<sub>二</sub>當<sub>一</sub>時<sub>一</sub>者<sub>上</sub>見<sub>二</sub>之<sub>一</sub>弘<sub>一</sub>義<sub>二</sub>明<sub>一</sub>公<sub>一</sub>矣<sub>一</sub>君<sub>一</sub>



右 儀射・定襄郡王・郭公閣下。蓋 太上／有立德。其次 有立功。是之 謂不朽。抑又聞之。端揆者百僚之師長。諸侯王者



則伯嗜不足稱。良樂未可尙也。／至若老姥遇題扇。初怨而後請。門生獲書机。父削而子懊。知與不知也。夫士屈